

令和5年度 第2期大阪市スポーツ振興計画施策にかかる有識者会議 議事要旨

○委員会の概要

日 時：令和5年10月4日（水） 15時00分～17時00分

場 所：大阪市役所本庁P1階 会議室

出席者：

（委員）相原正道、大井富美代、岡崎和伸（五十音順）

（大阪市）内山スポーツ部長、森本スポーツ課長、岩槻スポーツ事業担当課長、
藤田スポーツ施設担当課長、加藤マラソン担当課長、濱武スポーツ課長代理、

○議題

（1）第2期大阪市スポーツ振興計画の進捗状況について

（2）今後のスポーツ施策の振興にあたって必要な考え方・データ等について

○会議要旨

（1）第2期大阪市スポーツ振興計画の進捗状況について

大阪市からの説明に対し、各委員から以下のとおり意見があった。

〔主な発言内容〕

- ・スポーツ実施率について、国・市ともに低下傾向にあるが、若い世代においては上昇傾向にあり、30代以上の世代では低下傾向にある。
- ・運動する環境が身近にない方のためには、取り組みやすさやアクセスのしやすさが重要である。
- ・週に1回以上、運動・スポーツを実施する成人の割合の目標に関連して、コロナの影響による利用者の減少からかなり回復してきている。
- ・今後も現在の取組みを継続することで回復が期待できる。
- ・スポーツイベントや競技大会が盛んだと思う市民の割合については、これまでの様々な取組みやプロスポーツの盛り上がりなどがあり、上昇すると見込まれる。
- ・さらなる取組みとしては、スポーツツーリズムやデジタル技術の活用も効果が期待できる。

（2）今後のスポーツ施策の振興にあたって必要な考え方・データ等について

今後のスポーツ施策の振興にあたって、必要と思われる考え方や重要なデータ等について、各委員から以下のとおり意見があった。

〔主な発言内容〕

- ・DXやICTを活用した健康づくり支援は重要なポイント。
- ・スポーツ施設に来てもらう等、まずは身近なところで運動をスタートできるように

な取組みが大切。

- 様々な団体や都市がデータを収集しており、それらを参考にすることが有効な手段の一つ。
- 若年層にはスマートフォンのアプリを活用することが有効と考える。
- 大阪市は他都市と比較して大阪マラソンや大阪城トライアスロンなど様々なソフトが充実している。それらを上手く活用し、万博に繋ぐことができれば大きな効果が期待できる。